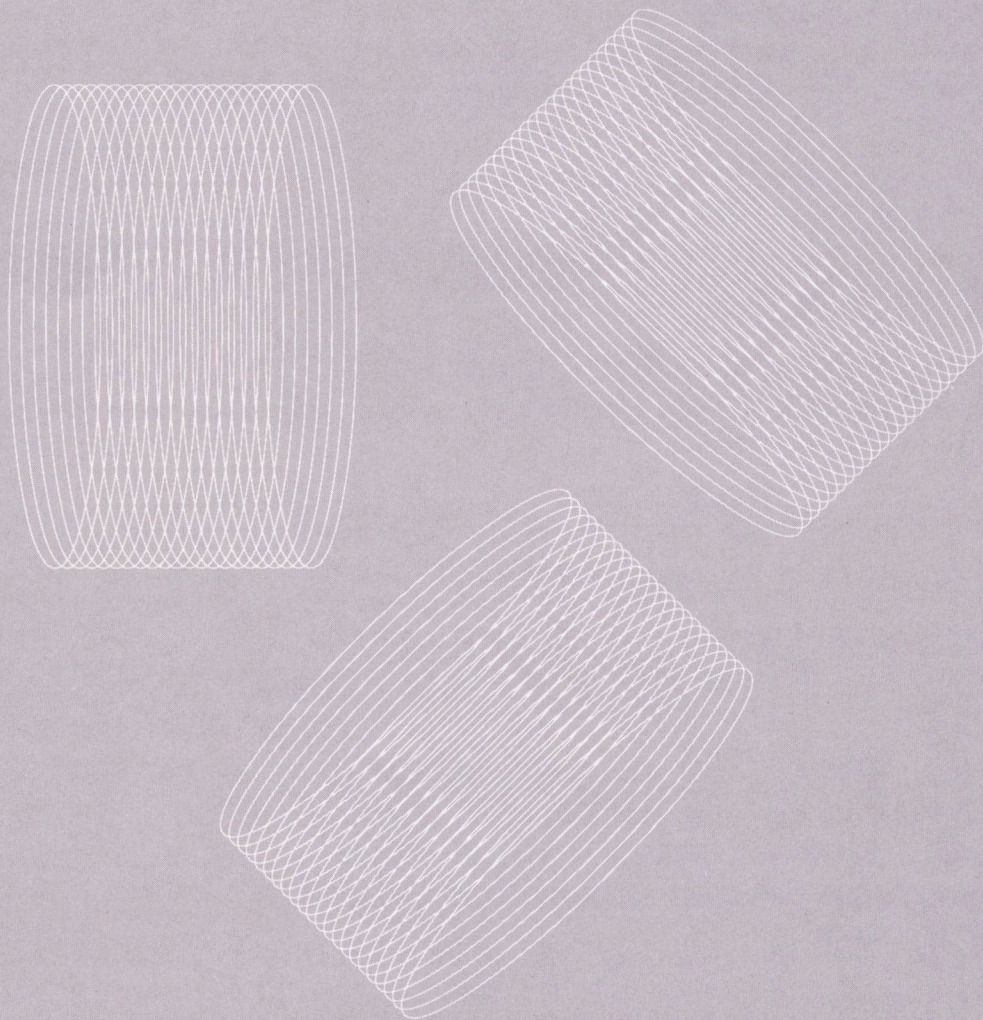


PRO MUSICA NIPPONIA



日本音楽集団

第150回 ◆ 定期演奏会 ごんぎつね～青少年のための～



Arts Plan 21



芸術文化振興基金

1998年1月29日(木) 午後7時開演
津田ホール

主催：日本音楽集団
〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302
電話03-3378-4741 FAX03-3376-2033
助成：文化庁・日本芸術文化振興会
舞台芸術振興事業

Asahiアサヒビール芸術文化財団

プログラム

一、日本の音たち（伝統楽器の紹介のための）

〈着到〉

〈寿式三番叟〉〈唐草三重〉〈乱序・獅子の狂い五段〉

〔笛〕 越智成人

〔細棹三味線〕 太田幸子・在原富士江 〔太棹三味線〕 田中悠美子・工藤哲子

〔大鼓〕 望月太喜之丞 〔小鼓〕 尾崎太一 〔締太鼓・小鼓〕 臼杵美智代

〈鶴の巢籠り〉 〔尺八〕 加藤秀和

〈乱〉 〔箏〕 佐藤里美

〈扇的的〉 〔薩摩琵琶〕 石田さえ

〈風〉 〔牧野由多可作曲〕〔十七絃〕 久東寿子

錦木によせてよ 〔茜雲〕〔琥珀〕（長沢勝俊作曲）〔二十絃箏〕 熊沢栄利子

二、ごんぎつね（委嘱・初演）

新美南吉 原作・佐藤万里 脚本・川崎絵都夫 作曲

〔語り〕 匠耕作（客演）

〔尺八〕 米澤浩 〔三味線〕 工藤哲子 〔二十絃箏〕 宮越圭子

〔十七絃〕 大島菜穂子 〔打楽器〕 臼杵美智代

————— 休 憩 —————

三、日本古謡に基づく三つの協奏的変容

〈大漁祝歌・子守歌・八木節〉

（委嘱・初演）今井重幸 作曲

〔笛〕 越智成人 〔尺八〕 米澤浩・加藤秀和

〔三味線〕 中山さち子 〔琵琶〕 石田さえ

〔箏〕 I 高橋はるな・桐岡知代 II 中垣雅葉・嶋崎光代

〔十七絃〕 早川智子・丸岡映美 〔打楽器〕 黒坂昇・立枝恵子

〔指揮〕 稲田康

四、子供のための組曲（1964年）

長沢勝俊 作曲

〔尺八〕 I 米澤浩 II 加藤秀和 III 添川浩史

〔三味線〕 太田幸子・在原富士江 〔琵琶〕 石田さえ

〔箏〕 I 熊沢栄利子・佐藤里美 II 大島菜穂子・高橋はるな

〔十七絃〕 宮越圭子・久東寿子

〔打楽器〕 黒坂昇・望月太喜之丞

〔指揮〕 田村拓男

曲目解説

日本の音たち

着到：歌舞伎囃子。本来は出演俳優の支度のできたことを知らせるもの。現在は開場の合図となっている。
壽式三番叟：義太夫節の祝儀曲。五穀豊穡を祈る舞の部分の抜粋して演奏する。**唐草三重**：三重とは歌舞伎囃子における三味線の合方。場面転換等の際の曲の間をつなぐ時間調整の役割を持つ。たいてい独奏だが、この三重は重奏である。**乱序・獅子の狂い五段**：〈乱序〉は四拍子で演奏され、獅子の登場を促すために用いる。必ず〈獅子の狂い五段〉を伴い、三味線が加わって、獅子が牡丹に戯れ遊ぶ様が表現される。**鶴の巢籠り**：尺八古典本曲。鶴の誕生、成長、情愛、離別、死を主題とした物語性を持つとされ、鶴の鳴声の描写等が特徴。**乱**：箏の純器楽曲。生田流では十段、山田流では十二段から成る。雪の情景を表したものとも言われている。**扇の的**：源氏方の那須与一が、平家方が掲げた船上の扇を射落とす、という屋島の合戦の情景を、薩摩琵琶で弾き語る。**風**：十七絃は、1921年に宮城道雄が考案し、伴奏楽器として用いられていたが、1965年に菊地悌子委嘱によるこの作品が登場して以降、独奏楽器としても活躍している。**錦木によせて**より「茜雲」「琥珀」：1973年、野坂恵子委嘱による二十絃箏の独奏曲。「藍玉」「萌黄」「茜雲」「瑠璃」「琥珀」の5曲から成り、幻想風な小品である。今回はこの中から2曲演奏する。

——このプログラムは、学校公演等で楽器紹介をする際に演奏される形式を取っているため、本来は完全な形で作品を演奏したいところですが、短縮した形で演奏します。——
(益井紀恵)

ごんぎつね

新美南吉 原作・佐藤万里 脚本・川崎絵都夫 作曲

序曲はこれから出てくる邦楽器の自己紹介から始まり、ごんの散歩、月夜、テーマソングが次々とメドレーで現れます。そして……ごんの事を歌う歌が全部で3回出てきますが、その歌をはさんで、「ごんのいたずら」「兵十のテーマ」「ひとりぼっちのテーマ」「葬列」などが続き、語りと一体となって物語を楽しく、哀しく盛り上げて行きます。

いろんな所で演奏できるように演奏者は5人に絞っていますが、尺八の長管（「シ」の尺八、良く使われる「レ」の尺八より低い音が出ます）や、三絃、今は絃が二十一本あるものが普通なのに名前は「二十絃」というお箏、低い音が出る十七絃（お箏）、そして何種類もの打楽器、とバラエティに富んだ邦楽器。そして味わい深い語りを存分にお楽しみ下さい。
(川崎絵都夫)

理解しあう、というのは本当に難しいことです。感情は始終すれ違い、誤解は絶えず生まれてきます。『ごんぎつね』もそんなすれ違いの物語りです。

ごんと兵十のふたりの間に初めて対話が生まれ、ふたりの距離がやっと近付いたときごんは死んでゆくなんて、新美南吉氏はどうしてこんな悲しい物語りを書いたのかなあとずっと思っていました。

でも振り返ってみれば、すれ違ったままで終わってしまう、すれ違っていることに気付きさえしない関係のほうが、現実の生活でははるかに多いのです。『ごんぎつね』はそんな現実への警鐘なのかもしれません。失われたつある“対話”への…。
(佐藤万里)

日本古謡に基づく三つの協奏的変容

〈大漁祝歌・子守歌・八木節〉

今井重幸 作曲

この曲は子供たちにも親しまれる様な分かり易く優しい曲と云う要望に応えるべく、広く知られている日本古謡の旋律の中より3つを選び、伝統的邦楽器の持つ特殊性・音色感等を重要なテクスチャとして協奏的に変容した合奏曲です。

全体は連続する三章から成り、第一章は東北地方の宮城に伝わる通称「さいたら節」とも云う「大漁祝唄」をテーマに、第二章は中国地方の広島近郊に伝わる「子守歌」をテーマに、第三章は最も知られる関東地方の群馬・栃木に伝わる有名な名文句「またも出ました三角野郎が、四角四面の櫓の上で、音頭とるとは憚りながら」と唄う「八木節」をテーマにした組作品です。
(今井重幸)

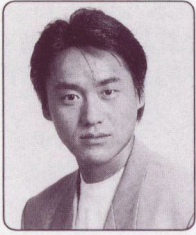
子供のための組曲

長沢勝俊 作曲

全部で五章からなる自由な組曲です。日本楽器を媒体として、生き生きと描きだされた子供の世界であり、素朴な旋律と律動感あふれるリズムを持ち、新鮮な感動と夢を与える作品です。1964年、日本音楽集団の第一回定期演奏会に初演されました。

1. 軽やかにのびのびと
2. ゆったりとうたう感じで
3. 遊戯唄風におどけて
4. しずかに子守唄風に
5. 激しく律動的に

プロフィール



匠 耕作 (伊藤事務所所属)

二枚目半のキャラクターと甘い声で、時代劇からミュージカルまで幅広くこなし、ハードロックバンドのボーカルで鍛えた、安定感のあるナレーションには、定評がある。

〈主な出演作品〉テレビ:「翼をください」「新幹線物語」他、映画:「ソクラテス」「スケバン刑事」他、舞台:明治生命ミュージカル「麗しのサブリナ三姉妹物語」他、CM/VF (ナレーション):第一家電TVCM、真岡線SLビデオ、NHKビデオ教材「理科ビジュアル図鑑」他、多数



川崎 絵都夫

1959年東京生まれ。魚座、A型。作曲を国越健司、永富正之、松村禎三の各氏に師事。芸大作曲科卒業後、作・編曲活動を開始。東響や坂本龍一のオーケストレーター、邦楽器、室内楽、合唱を主とした委嘱作品の発表を始める。文学座、新国立劇場を始めとした演劇の音楽やミュージカルも多数手掛ける。〈CD〉 歎びの樹 (日フィル協会委嘱作品集)、夢の碑 (文化座音楽集) 他。子供の為のPf協奏曲「不思議の国の冒険」他。〈出版〉 合唱曲、教材等。

現在、日本作曲家協議会会員、東京コンセルヴァトワール尚美、中部音楽芸術院講師。

佐藤万里

1963年生まれ。横浜市出身。フリーの舞台(演劇)スタッフとして活動すると共に、脚本、作詞も手掛ける。主な作品に、第6回島根音楽祭大田公演「学校ネズミのコンサート」(脚本、作詞)、劇団俳協「地球の秘密」(作詞)、小椋佳企画エルダ「夢にくちづけ」(脚本、作詞)。川崎絵都夫氏作曲による児童合唱曲の作詞に「船乗りの唄」「風よ」「海を見に行こう」など(いずれも音楽之友社発行CDブックに収録)。

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437